

現職教育計画

1 現職教育方針

- (1) 教育の真髄を追究し、より不易・普遍の教育課程を創り生みだす。
- (2) 強い人間関係の絆のもと、切磋琢磨しながら互いに磨き合う校内研修に努める。
- (3) 己を高め、教育の崇高さを認識するため、教材研究に留まらず絶えず研究と修養に努める。

2 学校研究

(1) 研究主題 磨き合う子の育成

(2) 主題設定の理由

本校では、財産である校下の伝統、校風及び教育課程を今現在に継承し、未来につなぐため、学校教育目標に「伝承と創生の教育」を掲げた。また修養すべき人の価値を「真」「仁」「健」「美」とし、その4価値を教師と子どもがともにめざす。

本研究では、学校教育目標とめざす教師・子ども像に迫るため、教師と教師、教師と子ども、子どもと子どもがともに学び、高め、深め合う最高位の学びの姿を「磨く」とし、「磨き合う子の育成」を実現する。

(3) 研究組織

研究主題に迫るため、学校の教育活動全体を三委員会からアプローチし、子どもを体系的に育てていく。その際、あらゆる教育活動に言語を大切に活動(以下「言語活動」という)を重視する。〈参照図-1 現職教育全体構造〉

	学習指導委員会	生徒指導委員会	特別活動委員会
磨き合う子	言葉を橋渡しに 磨き合う子	相手の気持ちを考えて 磨き合う子	「元気」 はつらつとした子 「根気」 ねばり強い子 「勇気」 チャレンジする子

なお、ここでは、学習指導委員会の取組・計画を紹介し、生徒指導委員会及び特別活動委員会については、別途、管理運営計画「生徒指導全体計画」「特別活動」の項に載せる。

(4) 研究計画及び研究内容

基礎的・基本的な知識、技能及び学び方(以下、**基礎学力**という)の習得とこれらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の能力(以下、**能力等**という)の育成の両輪で研究を進める。〈参照図-2 磨き合いの構造図〉

このため、授業は、指導と評価の一体化、本時のねらいと評価規準の一体化を図り、4観点に沿った「メリハリのある」授業を展開する。

まず、基礎学力の習得については、3本柱、朝の「野町習熟タイム」、「放課後学習教室」、「家庭学習の励行」に加え、知識・理解・技能等の授業は、「教える」、繰り返す、体験的理解をさせるなど、わかる喜びを体感させる展開とする。

一方、基礎学力を活用して、子どもの能力等を育む授業は、子ども主体の「考えさせる」問題解決学習を展開し、磨き合う喜びを実感させる。すなわち、基礎学力を育む授業展開とこれらを活用して育む思考力等のそれとは指導形態は異なる。

また、学校教育目標及び研究主題に迫るためには、教職員が一丸となって研究に取り組むことが有効かつ効果的であることから、以下のとおり教科的を絞り3年サイクルで実践検証し、教育課程の編成・改訂を行う。

年 度	金沢・野町スタンダード編成計画		
	窓 口		その他
H 2 3 年度	国語科野町スタンダードを再編		地域に生かされ、地域を活かす生活科、総合的な学習の時間を再編
H 2 4 年度	理科野町スタンダードを再編		
H 2 5 年度	社会科野町スタンダードを再編		
H 2 6 年度 ↓	H 2 6 年度以降は、同三年サイクルごとに教育課程の見直しをかけ、再構築を図る		

本年度は、平成20年度からの三年サイクル一巡目の研究をもとに、国語科を選定する。
 なお、本年度以降3年間の学習委員会が求める子ども像は、以下のとおりである。

年 度	主たる教科等	学習でめざす子ども像
H 2 3	国 語	言葉を橋渡しに磨き合う子
H 2 4	理 科	言葉と自然事象を橋渡しに磨き合う子
H 2 5	社会科	言葉と社会事象を橋渡しに磨き合う子

(5) 研究の重点

- ① 国語科における基礎学力の習得及び指導法について
- ② 基礎学力を活用し、能力等を育むための問題解決学習のあり方について
- ③ ①②をもとに野町スタンダードを再構築する

研究の重点に迫るため、下記のような具体的手だてで取り組む。

	研究の重点	具体的な取組等
①	国語科を中心とする基礎学力の習得及び指導法	<ul style="list-style-type: none"> ○国語科の基礎学力の指導 <ul style="list-style-type: none"> ・国語科用語 ・辞書利用 ・国語科学習の進め方等の学び方 (一人学習の仕方 等) ・国語科ノート（レポート等）のまとめ方 ・読書 等
②	能力等を育むための問題解決学習のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ○単元構成における評価規準の明確化と「磨き合う場」の設定 ○国語科の指導法及び展開法の明確化 <ul style="list-style-type: none"> ・<u>学習問題及び学習課題の吟味</u> ・主な発問や問い返し ・思考と表現の一体化の工夫（板書含む） ○話型の活用 ○辞書の活用 等
③	野町スタンダードの構築	<ul style="list-style-type: none"> ○発達段階を意識した教育課程の構築 ○問題解決学習の系統表の作成 ○資料の整備

※ 国語科等で習得した基礎学力を他教科に活用する。

(6) 具体的な取組等

① 基礎学力を習得させる（知識、技能及び学び方に関すること）

○習得三本柱について（知識・技能）

ア 「野町習熟タイム」の充実

基礎学力を習得させるため、「野町習熟タイム」を充実する。

- ・時間 朝の8時10分から8時35分 25分間の徹底
- ・体制 指導の充実を図るため、担任と校長、教頭、級外が関わり、複数で指導

取組の具体

- ・H22学力テストをもとに、学年当初に何ができないのか、子どもの実態を把握する。
- ・学期ごとに習熟度や取り組み方について評価する。指導法や進捗状況についても交流しながら、改善を図る。
- ・一人一人の子どもの進捗状況は、個人カードに記録させ、担任が把握する。単元末には、個人カードの記録やテストの結果をもとに評価し、短いスパンで、本人の努力を認めたり、励ましたりする。
- ・計算については、制限時間によって「習得」「習熟」「熟達」を設けて、2月に成績優秀者を褒め、全校朝礼で学校長より表彰状を渡す。また、当該学年で習得させたいその他の計算については、正確にできることをめざす。
- ・漢字については、4月当初から、新出漢字の他に、「前学年漢字20シート」と「当該学年まとめ漢字4シート」全ての習得（満点合格）をめざし計画的に取り組む。

	月	火	水	木	金
全学年	名 文 ・ 古 文 等 の 暗 唱 （ 8 : 32 ~ ）				
低学年	算数 (基本・応用・発展)	漢字 (当該学年)	算数 (計算)	本の読み聞かせ 漢字 (前学年)	算数 (基本・応用・発展)
高学年 (3年以上)	算数 (基本・応用・発展)	本の読み聞かせ 漢字 (前学年)	算数 (四則計算)	ME (英語ショート)	漢字 (当該学年)

イ 「放課後学習教室」の実施

「野町タイム」等でも基礎学力の習得が図れない子どもについては、月・水・金曜日「放課後学習教室」を実施する。

- ・時間等 低学年 ～15:45 中・高学年 ～16:30
- ・教科等 全ての教科
- ・方法 学級担任による子どもの認定・選考と保護者の承諾
- ・体制 管理職、少人数担当、保護者・学生ボランティア

取組の具体

- ・個に応じたプリントを綴ったファイル等を用意し、苦手をなくす。
- ・毎月月末に、定着度を見るテストを行い、基準を満たしたとき修了とみなす。

ウ 「家庭学習」の取組

学習習慣を確立し、子どもの積極的な学習への参画を促すため、保護者啓発も含め「家庭学習」への取り組みを強化する。

取組の具体

- ・家庭学習（最低15分×学年）の習慣化
- ・毎日漢字・音読・計算の復習
- ・価値ある宿題のリストアップ
- ・頑張っている姿を教師、親が激励

○学び方について

エ 「泉中校区「学びの基本」の徹底

子ども達に身に付けさせたい学習の構え、聴き方、話し方、書き方を、泉中と共通理解し、泉中「学びの基本」として示す。

取組の具体

- ・教室前面に掲示、実践

オ **「語彙」の育成**

取組の具体

- ・国語辞典や漢和辞典を発達段階に即した系統的な指導目標を設定し、全校で取り組む。
- ・他教科の学習にも国語辞典や漢和辞典を常備し活用する。

カ **「語彙や表現力の育成**

語彙を増やし、情操を高めるため、以下の取組を行う。

取組の具体

- ・「マイ・ブック・バック」を机横配置 給食等の隙間時間による野町の名作リスト100選の読書活動
- ・名文・古文等の暗唱
- ・各教科において、グラフの読み取り等の重点的指導

キ **「学びノート」「レポート」の実施**

生きたノート、生かされたレポートを作成できるようにするため、書き方等を指導する。

取組の具体

- ・前年度までの研究にならない、国語科ノート、レポート等の作成の仕方、メモ取り指導

② **基礎学力を活用し能力等の育成について（思考力、判断力、表現力に関すること）**

ア **「メリハリのある授業」の実施**

基礎学力を活用して、思考力、判断力、表現力等の能力等を育成するため、問題解決学習を展開する。

取組の具体

- ・評価規準の4観点を踏まえた「メリハリのある授業」について協議・研修
- ・週案に評価規準の4観点を明記
- ・板書案の作成に基づく授業展開

イ **「磨き合う姿」に迫る教師の構え**

ねらいに迫るための教師の支援の仕方について共通理解をはかっていく。

取組の具体

- ・「学習問題が本時を決める」という強い思いで教師が設定する
- ・キーになる発問は2～3に絞り込む。
- ・ねらいに迫るように、認め、方向付け、切り返し、待ち、さどす。
- ・板書案は必ずもって授業にのぞむ。
- ・まとめは学習問題と結びつける。
- ・ふり返りが磨き合いの命と捉える。

ウ **「話型表」の活用**

生きた話型表をもとに表現力をつける。

取組の具体

- ・子どもが使った独り言、つぶやきを話型表に載せ、逐次話型表を更新。
- ・前学年で使った話型は次の学年に継ぐ。

エ **「思考と表現の一体化の実施**

思考と表現をつなげるために、子どもの考えをいかに表現させていくか、全体の場どのように周知させ、考察させていくかの実践検証を行う。

取組の具体

- ・考えの書かせ方（文、図、絵、モデル図等）
- ・全体の場での広め方

オ **「辞書の活用**

磨き合う場においても、より深い思考をするために、必要に応じて辞書を活用していく。

取組の具体

- ・本時のキーワードとなる語句を教師は事前に選び、活用する場を想定しておく。

カ 語彙の活用

言葉を吟味する感性を身に付けるために、季節の俳句「芭蕉さん」に年4回チャレンジする。

取組の具体

- ・優秀作品は「今季の芭蕉さん」として、渡り廊下に掲示し、その中で最も心に響いた句を「校長賞」「教頭賞」として表彰する。

③ 探究する力の育成について

各教科等で培った基礎学力や能力等を駆使して、身近な人、地域において体験活動を通して、そこに存在する課題を発見し（課題発見能力）、問題解決する過程を通して問題解決能力を育成する。

ア 「あんずっ子発表会」とユネスコスクールの実践公開

取組の具体

- ・地域素材の見直しと社会科との関連を明確にする。
- ・探究学習となるように、教育課程を常に加除修正を加える。
- ・「話すこと・聞くこと」の発達段階を意識した表現指導。（話し手・聴き手の2往復半の姿）
- ・生活科、総合的な学習の時間の成果を保護者、地域に公開する。

12月7日(水)9時～11時50分

④ その他の取組（教職員の研修と子ども達の実態把握に関すること）

ア 「ぶらり参観」の実施

教師の授業力を向上させるため、互いに授業を見合う「ぶらり参観」を実施する。

取組の具体

- ・職員室に毎週、週案を掲示
- ・授業評価観点表示のもと、管理職等による月1回の授業参観・面談を行う。

イ 「かけこみ相談室」の実施

授業等の悩み、郊外研修の還元等、自主研修を実施する。

取組の具体

- ・職員室に記入・掲示
- ・内容は、学習問題、発問、板書、児童理解、教材の悩みごと等

ウ 実力テストの実施

子どもの学力の伸張具合並びに傾向を把握するため、実力テストを実施する。

- ・時期 12月
- ・教科等 国語、社会、算数、理科の4教科

取組の具体

- ・4月に知能テストを実施する(2年に1回ー平成22年度に実施)
- ・夏季休業7月に3者面談を開催
- ・実力テストの結果をもとに、1月の保護者面談の資料に活用
- ・実力テストの結果をもとに、1月からの学習に補強

(7) 研究の進め方

- ・4月に授業予定を決定し、研究授業は年2回以上行う。(そのうち1回は公開研究会とする)
- ・公開研究会で全員が発表を行う。(日本語教室も含む)
- ・全体研究授業は、全員が行う。(日本語教室も含む)
- ・指導案検討は、分科会で行う。
- ・研究授業は、国語科・総合的な学習の時間・生活科を中心に行う。
(ただし、算数少人数、級外教科、日本語教室、英語研修、小中一貫授業研究については、この限りではない。)
- ・研究授業で同じ単元を2人行う場合は、する場所を変えて取り組んでもよい。
- ・行事予定の中に、授業日と事前研、授業協議会の日程をのせ、磨き合う場を保障する。
- ・全体研究授業では、助言者を要請し、磨き合う機会とする。

以下に研究計画案を載せる。

	低学年分科会	高学年分科会	校 内
4月		5年1組 4/27(水) 5限	全体研究会 (研究の骨子・研究組織・計画、総合年間計画作成) 国語科・理科科・社会科学習会(ノートの書き方等) 全体研究会(研究概要の検討、指導案の検討) 全体研究会(提案授業)
5月	3年1組 5/18(水) 5限	5/12(木) 赤ちゃん登校日授業公開	全体研究会 小中一貫研究授業(泉中学校)参加
6月	2年1組 6/10(金) 5限	6/8(水) 赤ちゃん登校日授業公開 6年1組、2組 6/27(月) 5、6限	全体研究会
7月		7/5(火) 赤ちゃん登校日授業公開 4年1組 7/6(水) 5限	全体研究会
8月	8/8(月) 9(火) 国語・音楽・算数科指導案検討会		公開研究指導案検討会 国語・音楽・算数科学習会
9月	1年1組、2組 9/16(金) 4、5限 9月27日(火) 音楽 木谷先生		全体研究会(研究授業から見えてきたこと、前期話型)
10月		10月19日(水)(公開研究発表会)	(公開研究発表会紀要準備) 全体研究会(公開研究発表会の振り返り)
11月	11月21日(月)	少人数 田口先生	全体研究会(後期研究授業から見えてきたこと) 理科研修
12月		12月7日(水)(ESD発表会) 12月14日(水) 日本語教室 三田村先生 伊藤先生	
冬休み			
1月			全体研究会(今年度の成果と課題の検討会、来年度の方向性) 理科研修
2・3月			全体研究会(来年度の方向性) 理科研修

(8) 成果の普及

① 公開研究発表会の開催

平成23年10月19日(水) 午前8時～勤務時間終了 ※未定

あんずっ子発表会(生活科・総合) 平成23年12月7日(水) 午前9時～11時50分

② フリー参観の実施

学校便りを全戸(1900戸)配布するとともに、年中公開「フリー参観」を実施する。

③ 報告書の作成

研究成果については、三委員会の取組みも含めて主だったところに発信する。

④ 研究経過・成果のインターネット公開

インターネット「金沢市立野町小学校」「ほぼにち」にて研究経過及び成果を公開していく。